



お問い合わせ
アクト治療院
0293-23-3232

佐々木 常夫氏

東レで有名な佐々木 常夫氏について語らせて頂きたいと思ひます。
1944年秋田生まれの佐々木氏。1969年に東レに入社し、その東レ人生をスタートさせました。

自閉症の長男に続き年子の次男、年子の長女が誕生しました。
初めて課長に就任した1984年に奥様が肝臓病に罹患。その後はうつ病も併発し入退院を繰り返しました。

全ての育児・家事・看病をこなすために、毎日6時に退社し、家庭と仕事の両立を図る為に、「最短距離」で「最大の成果」を生み出す仕事を極めていきました。そして、業績悪化を急回復させる「再構築プラン」や釣り具業界の流通構造改革等を行い、数々の大事業を成功に導きました。

佐々木 常夫氏の言葉で印象深い一文があります。

○ 仕事をする上では強さが必要です。困難な仕事を成り遂げる「粘り強さ」失敗しても叩かれても立ち上がる「芯の強さ」ときには自説を押し通す「気の強さ」

しかし強さだけでは幸せになることはできません。強さの根底には、優しさがなければ、全てにおいて幸せになることはできないのです……。

昭和44年 東大 経済学部卒 東レ入社 販売管理部
30代前半に倒産しかけた会社に出向し再建東レの主力事業の繊維のスタッフで課長になったとき赤字になった繊維事業の再構築を担当
昭和62年 社長のスタッフとして経営企画室で経営革新プログラムを担当
平成元年 繊維の営業でテグス(釣り糸)の流通改革を断行
平成8年 繊維事業企画管理部長
平成9年 上司の社長就任により再び経営企画室へ
平成13年 取締役 経営企画室長
平成22年 (株)東レ経営研究所 特別顧問

ツボによる治療法



☆手を使って刺激する按摩法

ツボを刺激する方法には様々なものがありますが、家庭で手軽に行えるのは「按摩法」です。「按」とは押すこと、「摩」とはなでることを指します。
ツボ療法では、ツボを押ししたりなでたりして、気や血を動かして病気を治します。うまく利用するとかなりの効果があがります。

押す

ツボに親指を当て、体重を利用して3~5キロくらいの圧力をかけていきます。呼吸も大切で、押す時はゆっくり息を吐きながら3~5秒押し、息を吸いながら3~5秒かけてはなします。筋肉や神経の興奮を抑えるのに適しています。

なでる・さする

手のひらや指の腹でなでたり、さすったりします。経絡に沿って行うのが基本で、血行を良くしたいとき、リンパ液の流れを良くしたいときに適します。しびれ、むくみにも良い方法です。

叩く

こぶし、指の背、小指の側面などを使ってリズムカクに叩きます。叩く場所によって、どこで叩くかを選んでいきますが、首筋などの柔らかいところは小指の側面で叩きます。背中中の筋肉などの上にあるツボを刺激する際には、こぶしで叩きます。血行を良くする、神経や筋肉の緊張を取り去る際などに適します。

ツボ療法のしすぎに注意を

ツボを刺激する時間は全体でも15~20分くらいが目安です。あまり長い時間刺激しすぎると体がだるくなったりして逆効果です。

院長のつぶやき

新事業に向けて着々と準備が進んでおります。心強いスタッフを迎え、期待以上の働きをしてくれている事に、心から感謝しています。前向きに進んでいく姿を見ていると、昔の自分を見ている気分になってしまいました。「欲を持つ。そして、欲が磨かれ志になる」そう教えてくれた言葉をずっと胸に置き、ひたすら前へ進んでいました。不満を言葉にする前に、前へ進んでみる。「できない」のではなく、「やれる」。そういう志で進んでみてほしいと願います。何年後かに今の努力が自分の力と自信になっていくでしょう。そういう人たちを応援していきたいと思ひます。



痛風 発作が起きてしまったら

ちょいメモ

痛みを取り去る植物

痛風の発作が起きて痛みがある時に効果のある植物は、クチナシ・スイカズラ・ニワトコです。クチナシは乾燥させた実をアルミホイルで包み、フライパンで黒焼きにしたものを一日1g飲みます。スイカズラは茎と花に、ニワトコは葉に関節痛を治す働きがあります。乾燥させたスイカズラの茎や花と、ニワトコの葉を10gずつ、1カップ半の水で半分の量になるまで煎じて飲みます。

